

田野町文化財調査報告書 第24集

もと の
元野地区遺跡

たか の ばる
(高野原遺跡)

県営農地保全整備事業元野地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書概要

1996

宮崎県宮崎郡田野町教育委員会

例　　言

1、本書は、県営農地保全事業元野地区に伴い田野町教育委員会が実施した、高野原遺跡の調査概要報告書である。

2、本遺跡の調査は、下記のとおり実施した。

平成7年度　発掘調査、概要報告書作成

3、調査は、次の体制で実施した。

調査主体	田野町教育委員会	教　育　長	鍋倉 政信
		社会教育課長	前田 久育
		社会教育課長補佐兼係長	川口 博文
調査事務担当		同　主　查	長友カツ子
調整・事務担当		同　主　任	森田 浩史
発掘調査担当		同　主　事　補	金丸 武司

4、出土遺物、図面等の整理にあたっては、次の方々の補助をえた。



5、本書の執筆は金丸武司が担当した。

6、現地の調査にあたっては、田野町在住の方々の参加をえた。

7、本書に用いた方位は磁北、標高は海拔絶対高である。

8、出土遺物は田野町教育委員会で保管している。

9、本書に用いた土色は、農林省農林水産技術会事務局監修の「標準土色帳」による。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯 1

第2節 遺跡の立地と環境 1

第Ⅱ章 調査の結果

第1節 調査の概要 3

第2節 出土資料 4

挿図目次

第1図 町内遺跡分布図 2

第2図 調査区周辺地形図 2

第3図 基本土層柱状図 3

第4図 出土資料実測図 5

写真図版

集石遺構検出状況 3

元野地区全景 6

E区出土状況 6

F区出土状況 6

G区全出土状況 6

集石遺構検出状況 6

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

田野町元野地区では、平成4年度より県営農地整備事業が実施されている。今年度の計画区域は昨年度調査の行なわれた高野原遺跡の台地突端部にあたり、整備事業に先立って県文化課による試掘調査が行なわれた。その結果、縄文早期相当の遺物が出土し、調査区域は同時期の遺跡であることが明らかとなった。

その後、県文化課と中部農林振興局の間で協議が行なわれ、同年4月20日に町教育委員会と町農業整備課を含めた4者で、遺跡の保存方法についての具体的な協議が行なわれ、工事施工上消滅を免れない部分についてのみ、発掘調査による記録保存の措置を講じ、他は遺構検出面への影響はないとして現状保存とすることで合意に達した。平成7年9月4日に中部農林振興局との委託契約を締結し、同年9月10日より発掘調査に着手した。

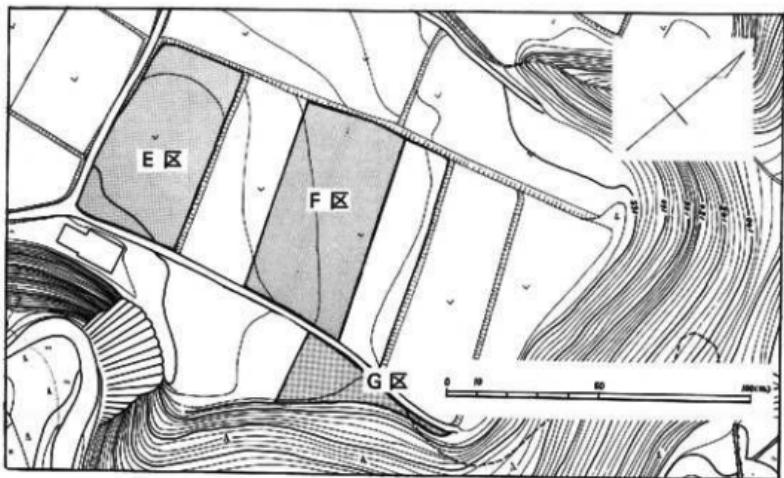
第2節 遺跡の立地と環境

田野町は、宮崎平野と都城盆地のおおよそ中間地点にあたり、田野盆地を中心として東西・南北に約14km、総面積109.01㎢である。盆地部はシラスにより形成された比較的広大な台地が発達しており、そのうえに鰐塚山をはじめとした周囲の山間部から流れこむ河川が深い谷を刻みながら合流している。これらの諸要素は、遺跡が形成されるうえでの好条件であり、丸野第2遺跡（七野地区＝縄文早～後期）、芳ヶ迫第1遺跡（前平地区＝旧石器～縄文早期）、札ノ元遺跡（同＝旧石器～縄文早期）、元木遺跡（船ヶ山地区＝縄文前・弥生中期）、天神河内第1遺跡（天神地区＝縄文早～中期）など、縄文時代をはじめとして良好な出土状況の遺跡が多数密集している。

今回発掘の行なわれた元野地区は、清武川の支流である片井野川と別府田野川の合流する地点の内陸部、標高約160mの台地上に位置し、同じ台地上に本野遺跡（縄文早～後・弥生）、黒草遺跡（縄文早～後）などの大規模な複合遺跡が所在する。当地区では、平成4年度～6年度の間に県営農地保全整備事業に伴い、縄文早期～後期・弥生中・後期の集落跡、古墳時代の地下式横穴が検出された。これまでの調査結果から、この一帯が、先史時代より絶える事なく営続されてきたことが明らかとなっている。



第1図 町内遺跡分布図



第2図 調査区周辺地形図

第Ⅱ章 調査の結果

第1節 調査の概要

調査は台地西側の切り土部分を対象とし、前年度にかけてすでに終了したD区に統いてE区・F区・G区を便宜的に設定して実施した。調査面積はE区約2250m²、F区約2600m²、G区約600m²である。

調査区は南西側の丘陵部から北東側の開析谷に向かって僅かな傾斜をみせるが、土層の堆積内容はほぼ一定しており、基本的な層序は右図のとおりである。このうち遺物包含層はVI層下部、縄文早期前半に相当する。

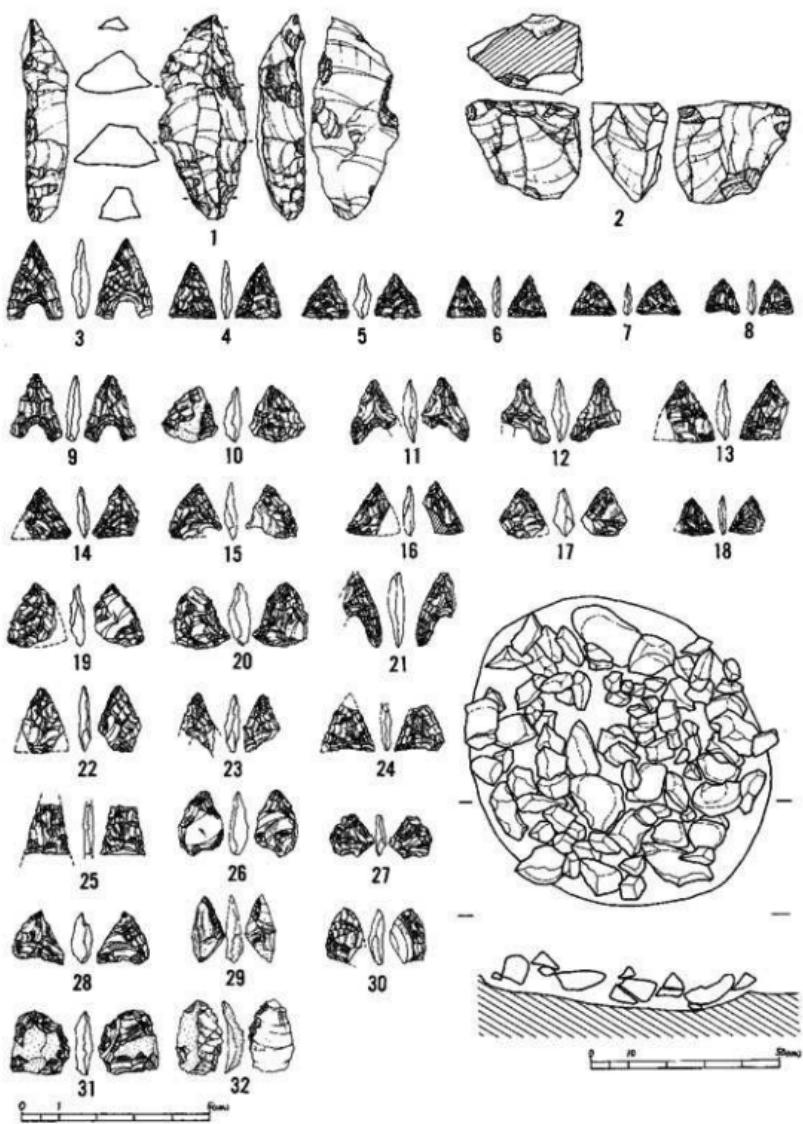
調査は、県文化課が行なった試掘調査での成果をもとに、VI層のみに絞って行なわれた。E区においては焼砾と剥片が僅かに出土した程度であったが、F区の傾斜面上とG区の台地東南の縁辺部より集石遺構が多数検出されたほか、まとまった量の遺物が出土している。遺物のうち大半は黒耀石製の石器で占められ、その内容は石鏃・石皿・磨石・二次加工剥片・使用痕剥片・剥片・碎片などである。

第I層（約30cm）	10YR暗褐3/4 (耕作土層)
第II層（約60cm）	10YR黒褐2/2
第III層（約10cm）	10YR黄橙7/8 (Ah二次堆積層)
第IV層（約25cm）	2,5Y黄7/8 (Ah二次堆積層)
第V層（約5cm）	2,5Y黄7/8 (Ah層)
第VI層（約60cm）	2,5YR黒褐2/2
第VII層（約150cm）	10YR明黄褐6/8 (AT層)
第VIII層	人頭大の疊層

第3図 基本土層柱状図



集石遺構検出状況



第4図 出土資料実測図

第2節 出土資料

遺構

今回検出された遺構は集石遺構のみである。F区で8基、G区で10基検出された。出土地点はF区が北側、G区が南側のそれぞれ台地縁辺部に位置し、ことにG区では、それぞれの集石が並列した格好になっている。このうち土坑を伴うものはF区で5基、G区で6基と、割合的には多いが、掘り込みの判別が困難なほど浅いものが殆どである。石材は在地の堆積岩系の円礫を使用しているが、熱変成を受けており、ひび割れが激しい。なお、F区東側やG区西側にも礫が密集している箇所があるが、明瞭な核および範囲を持たないため、集石遺構として認定したい。ただ、人為的に持ち込まれたことは明らかであり、またそのどれもが熱変成を受けていることから、集石遺構として使用された後に廃棄されたものであるとも考えられよう。(第4図はF区北部のもの)

遺物

調査による遺物は、表面採集も含めてパンケース6個分にわたる。うち土器は少量であり、また残存状態も良好と言い難い。なお出土層位はⅦ層下部、縄文時代早期前半に相当し、土器型式もそれにならって吉田式や石坂式などの円筒貝殻文系土器が主体を占めるが、押型文系の土器も僅かながら出土している。石器に関しては、地表面より旧石器時代に相当する遺物が採集されている(第4図1、2)。これらの他は縄文時代にあたる黒耀石製の石鏃(3~25)および未製品(26~32)と、その製作途上に生じたと考えられる剥片・碎片類が大半である。特にG調査区においては大量に出土しており、当地点が石器製作址であったことを窺わせた。石材はその大部分が黒耀石であり、チャートや流紋岩が僅少であるが含まれる。黒耀石は色調や混入物の状態から霧島近辺のものと思われる。

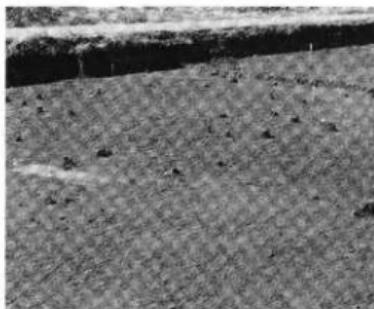
以上のとおり、高野原遺跡は縄文時代早期の単純遺跡であることを確認したが、この調査は元野地区台地部の一端に過ぎず、今後、当地の調査による資料の蓄積が待たれる。

参考文献

- 「丸野第2遺跡」田野町文化財調査報告書 第11集 1990 田野町教育委員会
- 「元野地区遺跡」田野町文化財調査報告書 第16集 1993 田野町教育委員会
- 「元野地区遺跡」田野町文化財調査報告書 第18集 1994 田野町教育委員会
- 「八重地区遺跡」田野町文化財調査報告書 第19集 1994 田野町教育委員会



元野地区遺跡全景（調査開始前）



E区出土状況



F区出土状況



G区出土状況



集石遺構構出状況

田野町文化財調査報告書 第24集
元野地区遺跡

発行年月 1996年3月
編集・発行 田野町教育委員会
印 刷 株 昭 和 印 刷